

令和4年度 授業計画書(シラバス)

授業科目名							
柔道整復学3							
学科・昼夜	学年	学期	担当教員名		実務経験		
柔道整復学科・昼間部	2年	2期	奥原 敬		○		
分野区分	教育課程			講義形式	単位	コマ数	
専門分野	臨床柔道整復学			座学	1	10	
科目概要							
学習範囲は生命維持に関わる血管や臓器の近傍である胸椎、腰椎および軟部組織であるため、それらとの関連性や外傷における内臓器損傷、脊椎病変といったものから、脊椎全体の運動生理学も学習範囲とする。また、柔道整復師の業務範囲を踏まえながら、現場で対応できる基礎的なものと同時に重篤な場合の対処法、鑑別法、対診についても習得させる。							
目標							
一般目標(GIO) <small>本講義を学習することで達成されるべき目標</small>	柔道整復師として患者を正しく管理できるようになるために、胸椎から腰椎までの解剖と機能の基礎知識を習得するとともに、それらに必要な臨床的技術と態度を身につける。						
	到達目標(SBO) <small>一般目標を達成するために必要な具体的な内容、客観的な指標(合格基準)</small>	一般に重篤な疾患も含まれる範囲のため座学ではあるが、臨床的および緊急性を含めた形での対応を習得する。 1. 胸椎および腰椎、軟部組織の解剖・生理を理解し、名称を記述できる 2. 胸椎および腰椎の構造において複数の選択肢から適切なものを選ぶことができる 3. 胸椎および腰椎の外傷・軟部組織損傷の原因を列挙できる 4. 胸椎および腰椎の機序において複数の選択肢から適切なものを選ぶことができる 5. 胸椎および腰椎の外傷・軟部組織損傷の症状および対応が説明できる 6. 脊柱外傷の臨床的な状況において複数の選択肢から適切なものを選ぶことができる					
履修に必要な予備知識や技能 脊柱における解剖生理、特に胸椎および腰椎の骨構造や軟部組織の基礎知識、神経系や姿勢の基礎などを予習しておくことが望ましい。							
教科書・参考書							
柔道整復学・理論編第6版 柔道整復学・実技編第2版 解剖学・生理学すべて教科書							
受講上の注意							
挨拶の励行 私語・スマートフォンの使用・撮影・録画は一切の禁止とする							
成績評価方法							
評価方法	定期試験	小テスト (チェックテスト)	レポート	実技試験	プレゼンテーション	その他	(合計)
評価割合(%)	90					10	100
	定期テストを主とし、授業態度や出席状況などを勘案し総合的に判断する						
回数	授業内容			教科書	教材・持ち物		
第1回	胸椎の骨折			『柔道整復学理論編第6版』p200～203	教科書 ノート 筆記用具等		
第2回	胸椎の骨折			『柔道整復学理論編第6版』p203～205	教科書 ノート 筆記用具等		
第3回	胸椎の脱臼			『柔道整復学理論編第6版』p205～206	教科書 ノート 筆記用具等		
第4回	胸部の軟部組織損傷			『柔道整復学理論編第6版』p206～208	教科書 ノート 筆記用具等		
第5回	背部の軟部組織損傷			『柔道整復学理論編第6版』p208～210	教科書 ノート 筆記用具等		
第6回	腰部・仙骨部の解剖と機能			『柔道整復学理論編第6版』p210～212	教科書 ノート 筆記用具等		
第7回	腰椎の骨折			『柔道整復学理論編第6版』p212～215	教科書 ノート 筆記用具等		
第8回	腰椎の骨折と脱臼			『柔道整復学理論編第6版』p215～217	教科書 ノート 筆記用具等		
第9回	腰椎の脱臼と軟部組織損傷			『柔道整復学理論編第6版』p217～219	教科書 ノート 筆記用具等		
第10回	定期試験				筆記用具等		
実務経験と本講義との関連について							
柔道整復師として整骨院勤務、専科教員、自院の運営と計16年従事。胸背部・腰部などの外傷について多数担当した経験から脊椎外傷について講義します。							